

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：S R S株式会社
定 価：一部30円
2015年12月20日
第**391**号

あなたのための

クリスマス

理事長 稲松 義人

聖書には、二箇所にもクリスマス物語（イエスの出生の物語）が記されています。マタイによる福音書がユダヤ人たちの歴史の延長線上にイエスの誕生を位置づけようとしたのに対し、ルカによる福音書は、できるだけ実際の歴史に沿って伝えようとしているように思います。その中で、母であるマリアの記憶が、イエスの誕生物語に大きな影響を与えているように思われます。

そこから読み取れるのは、旅の途中での出産であったこと、宿屋に泊まることができず、たぶん家畜小屋のようなところで出産したことです。そして大勢の羊飼いたが、次々にそこを訪ねてきたという事です。

羊飼いたちは、「旅の女性が出産をし、赤ちゃんは布にくるまれて飼葉桶に寝かされている」といううわさを聞いて集まってきました。そして、羊飼いの間でうわさになって次々とその様子を見に来たのではないのでしょうか。マリアと夫ヨセフは、この訪問者たちに戸惑います。疲れた身体にはひよつとすると迷惑だったかも知れません。

二人は、少しイライラしながら「どう

して皆さんは次から次に私たちの赤ちゃんを見に来られたのですか。」と羊飼いたちを問い詰めます。すると、機転のきく羊飼いの一人が、「そりゃあ、神様のお告げがあったのさ。天使が教えてくれたのよ。だからお祝いに来たのさ。赤ちゃんに会えてよかつたよ。なにか元気がでたよ。ありがとよ」とマリアに笑顔で返します。マリアは、そのような羊飼いとのお話をそのまま覚えていたのではないのでしょうか。「私の赤ちゃんの誕生を、天使の知らせで知ってお祝いに来てくれた羊飼いたちがいた。何と不思議なことだろうか」と思い巡らしていたのではないのでしょうか。

そして、イエスの誕生は、そのようにして、たぶんその時代のユダヤの国では、貧しくて身分が低かった、夜通し野宿して羊の群れの番をしなければならいような人たちのところに、天使によって知らされたという物語になったのではないのでしょうか。

聖書(物語)を読むときには3つのステージがあるということ、学生の頃に教わりました。一つ目は、「字を追って読む。黙読する。音読する。」という段階で、日本語の聖書は日本語を読むことができます。二つ目のステージは、物語の背景を考えながら、あるいは調べながら読むという段階です。「羊飼いが登場したときに、自分のイメージで「羊を飼っている人」というだけではなく、その物語の時代背景

はどうだったのか、当時の羊飼いがどんな暮らしをしていたのかなどを考慮しながら読むということです。これは知的作業を伴うことで、学者たちはずっとそのための研究をしています。私たちはその成果から学び参考にして読むことができます。そして、三つ目のステージは、その物語が自分に語られていると感じて読むということです。映画やテレビドラマでも自然と登場人物に感情移入して見入ってしまうことがあります。聖書の物語から自分自身へのメッセージを感じながら読むことにより、神さま、イエスさまと自分自身のなかに新たな関係を感じるようになります。

私たちが希望を感じられないような生活をしているときに、「神さまは、私たちのために『救い主』を誕生させてくださった。」というクリスマスの物語は、その閉塞感から救ってくださる喜びの知らせになるのではないのでしょうか。

日本では、一年の締めくくりのこの時期に、クリスマスがやってきます。一年を振り返ると、たくさん課題があり、いろいろと心配事があるのに、思うように解決できず、世の中の不条理を感じたり、自分の不甲斐なさを感じたり、ちよつと気分が塞いでしまうことがあるかも知れません。そのようなときにこそ、きつと、クリスマスは、あなたのためにやってくるのではないかと思えます。クリスマス、おめでとう！

感性豊かな絵画・造形・工芸あれこれ

各施設では日中活動・余暇活動として、利用者の障がい像に見合った様々な活動を提供しています。今回は、文化・芸術活動にスポットをあて、利用者の活動風景や作品を手掛ける熱い思いを報告してもらいました。

「のびのびと楽しむまねじ」

三方原スクエア 鮫島 理紗

三方原スクエアには年齢、障がい共に様々な方が生活されています。その中で画家であり20年以上に渡って小羊学園で絵の指導をして下さっている中道芳美先生を月に2回、週末の余暇の時間にお招きして「絵画教室」を行っています。参加者は入所者が3名、グループホームの方が2名、在宅の方が3名と少人数ではありますが、各自全紙の大きな紙に思い思いの絵を描きながら皆で楽しく活動しています。同じ大きさの丸をいろいろな色で描く方や、キャラクターを多数描く方、家族で出掛けた時の思い出を絵にする方など様々ですが、そのような利用者の個性やペースを大切にしながら描いているため、一つの作品を1ヶ月で完成させる方もいれば半年や1年かけて描く方もいます。画材も色鉛筆や水彩絵の具、クレヨンなどを使用しており、気分によって画材を変える方もいま



す。皆さんタイプの違う絵を描くのですが、それぞれの方の絵に興味をもって見たり、お互いに触発し合っているように感じる時もあります。活動の終わりにはおやつ時間もあり、皆でジュースを飲みながら次回の活動日時を確認したり、次に描く作品の意気込みを話したりとおしゃべりを楽



しんだりもしています。てんかん発作や体調の関係で描けないかな?と思う時でも、参加をしていると他の方の頑張っている姿を見て少しずつ手が動いていることもあり、皆の活動意欲に驚かされま

以前は愛護ギャラリーへ出品していましたが、近年では中道先生が発表の場を数々用意してくださり、市役所や近隣の大学の文化祭などで工夫しながら展示の場を設けています。三方原スクエアの施設内でも交流スペースを展示場所にして皆の作品を飾っていますので、三方原スクエアにお越しになった際には是非、皆が頑張った作品を見て楽しんで頂けたらと思います。

「思いがけない発見」

支援センターわかぎ 米岡 千津子

40名の入所利用者+グループホーム4名+ショート利用者数名で、平日は午前5グループ・午後7グループに分かれて活動しています。わかぎの皆さんは二十代の頃は力仕事も熟していましたが、現在は穏やかな活動が中心です。特に芸術活動に力を入れているつもりではないのですが、自由に絵を描く環境を設定したところ、それぞれの素晴らしい個性が発見できたり、織物に楽しさを見出したらそれもまたすてきな世界が広がっていききました。

私も子供の頃、絵を描くのが大好きで家中落書きしたのですが、天井まで手を伸ばし描いていない場所がないというほど夢中になった時代がありました。そんな開放された時代があったせいか、『もっと自由でいいんじゃない』という気持ちに常にあります。自分から発信しない方でも、『何が好きなんでしょう? どうしたら楽しいんだろう?』と笑顔や夢中に慣れる事を求めて色々提供していくと思いがけない発見があります。

世の中にはルールや縛りが多数存在していますが、出来る限り好きな事を好きなようにできたらいいなあ・と思うています。例えばMさんは活動場所へ行くのが楽しみなようで、車椅子を自走して

絵を描けるテーブルの前に止めます。集中し過ぎて昼食時間になっても色鉛筆と紙を離したくないと握りしめていたことが多々ありました。四角や丸、数字やアルファベット等をよく描いていて独特な世界だな・と書いていたら、身近な物をじっと観察しそれを真似して描いていました。絵本をいくつか周りに置いておいたら、最近は挿絵に塗り絵して楽しむ様になっていく。狭い環境の中でも本人が好む場所に来て心地よい時間が過ごせる・そんな時間が持てているのではないのでしょうか。



Kさんはお花といえばチューリップを描きますが、愛護ギャラリー出展に挑んだ大作は見事に同じものがないチューリップの花が並んでいました。賞を頂き、良かった点を先生に伺ったとこ

ろ、「まっすぐに線が引け思いつきりが良い」「はり絵部分のグラデーションが良いので今後はもっと質の良い和紙で染めて、そちらの方でハサミを使う事を極めていくと良い」と方向性を示唆して下さいました。



私は今年愛護ギャラリー展の実行委員という役を賜りました。自分が普段の活動の中で行っていたレベルから一気に離れた世界を見た感じでした。先生は一つ一つの作品に対し「この部分が良い」「この部分がマイナスだった」「次からはこうした方が良い」とハッキリした道標を示して下さいます。ただ描く環境を整えるだけでなく、専門性が必要と強く感じました。スポーツでもそうですが伸びしろが違ってくるようです。伸ばしてくれるのか摘んでしまうのかは支援者次第という事でしょうか。出展するとい

う事は私にとつてとても刺激になりました。自由で良いじゃない・という所から、見て下さる人の評価、次なる期待が出てきます。本人がそれを必要とするかどうかは予測でしか分からない段階ですが、更なる上があるならば一歩踏み出してみたいになりました。これからも利用者さんと楽しい時間を共有できる事を励みに自身ももっと学ばなければと思ふ今日この頃です。

「個性あふれる作品を目指して」

つばさ 静岡(わたぐも) 永田 典子

わたぐもは、重症心身障害者の為の生活介護事業所です。毎日20人前後の方々が障害に応じ4グループに分かれ利用されています。

わたぐもでは、芸術活動に限らず日中活動を提供するうえで、利用者本人の持つ力や力を大事にし、ひとりひとりの目標に沿った支援をめざしています。ですから、同じテーマの製作であってもその様子は各グループの利用者像によつて、様々です。

元気がいっぱいAグループでは、紙をビリビリ破いたり、丸めたり大きな動きでダイナミックな活動ができます。そこに職員の一と工夫が加わった素敵な作品を壁の上部に掲示したり、天井から吊るしています。(手の届く場所の展示は、

自分たちの作品が一瞬でオモチャと化してしまうので…笑)

BCDグループでは、活動に適した姿勢を整えることから始まります。「筆を持つなら腹臥位マットの方が腕の動きが制限されないね」「手元がみえるように、座位になろうか」という具合です。そして頑張つて発信してくれるほんのわずかな力でも伝わりやすいように、道具も工夫します。リハビリの先生たちが作ってくださった電動スイッチもその一つで、紙すき活動でのミキサ操作には大活躍です。

活動の環境が整ったらスタートです。重い障害があっても、体に秘めた意欲は無尽大です。色や道具の選択から配置、デザインを決める時には、声で返事が出来る人、眉の動きで、瞬きで、視線で、指先で、等々自分なりの方法で伝えてくれます。私たちはその言葉をしっかりと受け止めなければなりません。そして筆を持つたり、粘土を掌においての作品作り…その表情にやる気があふれていても、指先にはなかなか力が伝わらず…自発の動きを待つて、待つて、待つて…わずかでも動きがあつたときの喜びは感動ものです！逆に時間切れとなり、「頑張つたね。続きは今度にしようね。」と、終了することも少なくありません。なぜなら作品つくりのなかでも、自分でできたという達成感を大事にしたからです。

そこで、継続活動も大切にしていま



す。フェルト・紙すき・紙粘土などを定期的に行い半年後、1年後に一つの作品を目標にするというものです。時間を気にせず、その人なりのペースで繰り返し、繰り返し経験することで力が入れ具合や手の動きもスムーズに行えるようになってきます。そして完成した作品への愛着もひとしおです。

・・・以前、大先輩に言われたことがあります。「障害を持った方にどこまで支援するか、見極めが大事。見栄えが良い、職員の作品になったら価値はない。」と。この言葉を頭におきつつ、充実した活動を提供したいと思えます・・・個性あふれるわたぐも利用者の自慢の作品を、是非みにきてください!

小羊学園を支えるボランティア

ゆずり葉 様

「ゆずり葉」さんは、積志公民館（浜松市東区）のふれあい学級の有志で構成された団体。児玉レイコさんの指導のもと施設の子ども達へ発表会を行い、小羊学園とも交流が生まれたようです。その後、約30年継続して洗濯物畳みや裁縫の奉仕をいただいています。現在の会員は15人から20人。毎月1回、第1火曜日に奉仕いただいております。その働きに感謝申し上げるとともに、会員の皆様のご健康と平安をお祈り申し上げます。



静岡県知的障害者福祉協会主催の第24回愛護ギャラリーにおいて金賞を受賞しました。「和の心」と名された作品は、おりぞめ和紙で作られた障子戸の内面に色とりどりの花と行灯がレイアウトされ、見るものの心癒される作品に仕上がりました。工芸部門の作品は、利用者と職員の融合も評価されます。その完成度の高さにも多くのギャラリーも足を止めて鑑賞されました。

また、支援センターわかぎの工芸の部作品「大きな地球と小さな宇宙」も銀賞、絵画の部で奨励賞をいただきました。

オリブの樹 金賞受賞
愛護ギャラリー工芸の部



↑銀賞(わかぎ)



金賞(オリブの樹)⇒

毎年の時期になるとクリスマスムード一色になる。12月を師走と呼ぶのは日本古来の呼び方であるが、教会の牧師は本当にこの時期、教会や施設・学校・家庭などのクリスマス集会に走り回っている。主のご降誕を待ち望む節に、イエス様のご降誕の祝福とともに味わう喜びに満ち溢れ、疲れもとんでいられるのかもしれないが、伝道者として健康が守られるよう切に祈りたい。

新しい年が明けようとしています。迎え来る2016年が皆様にとって実り多き年でありますように願っています。寒さ続きます。どうぞお身体ご自愛ください。

(F)

編集後記

小羊学園を支える会

2015年度 寄付金報告

11月 受付分 135,300円 (13件)
累計 5,192,150円 (144件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337